



GPW 奨学生報告書 2017 年度後期

平素よりお世話になっております。NPO 法人アクションの山本です。

2018年4月をもちまして今年度の課程が終了し、今年度奨学支援を受けていた7名の奨学生全員が無事進級することができました。今年度後期のこども達の様子を下記の通り、ご報告させていただきます。

①Balanquit, Reymon P. (9年生)

前期は数学が得意と言っていたレイモンですが、後期はそれに加えて、科学も得意教科になったと言っていました。成績においても、この2教科は良い成績を残すことができました。反対に、英語とフィリピン語が苦手教科だそうです。先生の話では、レイモンはフィリピン語の授業において、宿題や提出物をしっかりと出しているのだが、試験の結果がなかなか上がらずにいるとのこと。数学や科学等の理系教科を得意とし、英語やフィリピン語等の文系教科を苦手としているレイモンですが、苦手な教科に対しても、きっちり宿題や提出物を出しているため、今後は成績が改善されていくことを期待しています。

また、レイモンの課題としては、前期に引き続き、なかなか率先して意見を言うことができないという点があります。控え目でおとなしい性格のレイモンは、奨学生同士でのストリートエデュケーションの打ち合わせの時にも、なかなか自分の意見を言うことができないでいる姿を見ます。レイモンが奨学生のなかで一番最年少であるという点も、奨学生同士の打ち合わせの際になかなか意見を言えないでいることに影響しているのかもしれませんが。一方、協調性を重視するという長所をレイモンは持っています。ストリートエデュケーションでは、その長所を活かし、他のエデュケーターと協力しながら、参加者のこども達を引っ張ってくれています。レイモンが現在持っている長所を更に伸ばし、課題である消極性を少しでも克服できるよう、担当スタッフとともに寄り添ったサポートができればと考えております。

②Bautista, QM D. (9年生)

前期では、数学が得意と言っていたキューエムですが、第3学期あたりに授業



が難しくなり、数学が苦手な教科になってしまったと言っていました。けれども、第4学期には再び数学に対する理解を深め、得意教科に戻ったと話していました。授業の内容、習う分野によっては、得意教科であっても理解するのに苦労しているようですが、それでも難しい問題と向き合い、その問題が解けた時にはとても楽しいと話していました。数学という教科の楽しさを感じながら勉強に取り組めているので、このまま数学に対して良いイメージを保持しながら勉強に励んでくれたらと期待しています。また、前期と同様に、英語は依然として苦手教科のままです。苦手な英語教科においても、数学と同様に、英語の楽しさを発見し、楽しみながら勉強に取り組めるようになってもらえればと期待しています。しかし、苦手と言っていた英語に関しても、年間を通しての成績では85点と非常に高い成績を取っております。また、他の教科の成績においても、80点後半以上の成績が多く、得意の数学に関しては、第3学期の成績が95点、第4学期の成績が93点と非常に高い点数を獲得することができました。この一年間のキューエムの頑張りが見て取れる成績結果となりました。

成績以外でも、欠席が少なく、授業や行事へ積極的に参加する姿勢が担任の先生より高い評価を受けています。グループ発表のときにはリーダーとなり、グループをまとめる役も担ったとのこと。また、当会が実施するアクティビティにも、非常に高い出席率での参加を見せています。また、進んで重い荷物を運んだり、当会スタッフのお手伝いも積極的にしたり、勉強以外の面でもキューエムの成長を感じることができる一年となりました。

③Caranzo, Cristy B. (9年生)

お医者さんになりたいという夢を持つクリスティですが、前期に引き続いて、後期も非常に良い成績を収めることができました。第4学期の成績では8教科中6教科で90点以上の成績を出しており、残り2教科も89点、88点とほぼ90点に近い点数を取っています。本人も苦手な教科はないと言っており、非常に優れた理解力のなかで勉強に取り組んでいます。また、今年度は欠席が年間を通して一度だけと非常に高い出席率でした。

担任の先生のコメントでは、クリスティはディスカッション等にも非常に意欲的に参加しており、議論をすることをとても楽しみながらしているとのこと。当会が実施したアクティビティで日本人ボランティアが来た際には、日本



人に対して積極的に話しかけ、質問をしたり、日本語を教えてもらったりと、クリスティの好奇心の旺盛さと積極的にアプローチをするという行動力が、クリスティの成長につながっているのだと感じています。このままクリスティが何事に対しても積極的な姿勢を維持し、勉強面や人間性にどんどん磨きをかけていってくれればと期待しております。

④Domingo, Precious Jane C. (11年生)

中等教育の後期課程(日本においては高等学校教育にあたる)で勉強しているプレシャスは、前期に続き、後期も皆勤で学校に通学しました。195日の登校日中、一日も欠席することなく学校に出席したことは、非常に評価できることだと思います。成績においては、今年度の最初の学期では、ひとつも90点以上がなかったのですが、最終学期には9教科中6教科で90点以上の成績を取ることができました。毎日学校に通い、地道に勉強に励んだプレシャスの努力が成績の結果として表れたことは非常に嬉しく思います。

ストリートエデュケーションでは、メインファシリテーターとして、アクティビティ全体をリードする大きな役目を担っています。アクティビティ実施中には、なかなか言うことを聞かないこども達もおり、手を焼いているときもありますが、参加したこども達のためになるようなアクティビティが実施できるように頑張って指揮を執ってくれています。何事に対しても責任を持って最後までやり遂げ、また、困難な状況になっても、そこから逃げ出さず、乗り越えていけるように努力するプレシャスの人間性は、彼女の今後の人生においても大きな力となりうると確信しています。

来年度はプレシャスにとって中等教育の後期課程の最後の年となります。プレシャスの進路としては、高校卒業後、大学に進学し、勉強を続けたいと本人は話しています。そして、ソーシャルワーカーの資格を取りたいとも言っています。彼女が目標に向かって一歩でも近づけるように、まずは来年度の学業をしっかりとした修了できるように担当スタッフとともにサポートできればと思っています。

⑤Labana, Jornalyn (11年生)



プレシャスと同様に、中等教育の後期課程に通っているジョルナリンも無事今年度の課程を修了することができました。前期課程で目立っていた欠席の多さも改善され、前期の欠席数15回から後期の欠席数を3回に減らすことができました。授業においては、教科が前期のものとは変わったりもしましたが、成績をひとつも落とすことなく、良い成績を残すことができました。後期の授業では、哲学の授業が面白かったとジョルナリンは言っていました。また、体育の授業では90点以上の非常の優れた成績を残すことができました。選択科目では、前期に引き続き料理の授業を選択しました。料理の授業では、クリスマス料理として「ビビンカ」と呼ばれる米粉のケーキの作り方を学ぶなど、料理好きのジョルナリンにとって、非常に楽しい授業であったとのことでした。

ストリートエデュケーションでは、プレシャスと共にメインのストリートエデュケーターとして頑張っています。アクティビティ実施中に泣いている子がいればすぐに駆けつけたり、話を聞かない子がいれば話を聞くように促したりと、頼れるお姉さんとしてみんなを引っ張ってくれています。また、家庭でも、よく弟や妹たちのお世話をしており、とても面倒見の良い優しいお姉さんとして頑張っています。

卒業後のジョルナリンの進路としては、まだ本人も決めきれていないのですが、大学に進学か、もしくはレストランで働きたいと話しています。ジョルナリンの進路に関しては、引き続き本人、家族と相談をしながら、ジョルナリンが一番に望む進路に向かって進めるように応援したいと考えています。

⑥Liquidó, Joven A. (10年生)

前期には二つの科目において赤点があり追試により合格したジョベンですが、後期の最終学期の試験では赤点を取ることなく無事一年間の学業を修めることができました。好きな教科は、前期に引き続き英語だと言っていました。日本人ボランティアがストリートエデュケーションに参加した際には、英語を使い積極的にコミュニケーションを取ろうとしています。これからも英語に興味を持ち続け、授業以外の機会でも積極的に使用していくことにより、彼の英語能力が向上していくことを期待しています。

ストリートエデュケーションでは、グループリーダーとして意欲的に子どもたちをまとめようと頑張っています。ストリートエデュケーションは屋外で行っている活動であるため参加者に声が届きにくいという状況のなか、参加者の



こども達みんなに声や指示が聞こえるよう、大きな声を出し、頑張っています。また小さいこども達に対しては、わかりやすく丁寧に教えているジョベンの姿を多く見ることができます。

体調に関しても、以前の病気の影響をほとんど感じることなく、元気に学校に通い、アクティビティにも多く参加しています。これからも、ジョベンが元気な身体で、元気に勉強や日々の生活を送ってもらえればと願います。

⑦Velasco, Aris（8年生）

前期過程では、提出物に課題があったアリスでしたが、それでも欠席が少なく学校に通うことができていました。しかし、後期に入ると次第に欠席する日数が増え、2018年になってからは不登校になってしまいました。当会の担当職員による家庭訪問を数回実施し、アリスやアリスの母親と話し合いを行ったのですが、アリスの口から学校にはこれ以上行きたくなという言葉を聞かされました。アリスが学校に行きたくない理由としては、先生との関係がうまくいっていないこととクラスにいることが退屈に感じるからであると言っていました。ただ、アリスも勉強が嫌いになったからという理由で学校を休みだしたわけではなく、学校での人間関係がうまくいっていないことが学校を休む理由となっているので、勉強を続け、卒業することの大切さは理解しているようではありました。不登校により留年してしまう可能性があったため、当会の担当職員は担任の先生とも話し合いの機会を設けました。先生によると、アリスの出席状況や提出物、テストの状況から進級することは難しいと話していました。ただ、アリスは学校に来なかったり、成績が低かったりしたけれども、先生や年長者に対しては敬意を払うなど良い生徒であり続けたとも話していました。このため、アリスが進級できるような特別措置を与えてあげたいとのこととなり、アリスは4月に教室の扉の修繕を行うという特別課題を与えられ、その特別課題をこなしたことにより、特別に来年度は9年生へと進級することが認められました。それに伴い、アリスが進級できるようにとの配慮を受け、成績表の修正もしていただきました。今年度の後期で不登校の時期があったことから、来年度では授業内容についていくことに苦労するかもしれません。また、アリスは内気で引っ込み思案の性格をしており、来年度に先生やクラスメイトとどのような関係を築けるかも心配事としてあります。アリスが社会のなかでスムーズに人間関係を築いていけるようにするために、社会のなかで生きていくために必要なスキルであるラ



イフスキルをアリスが身に付ける手助けとなるようなサポート等もアリスに対して行っていければと考えています。

⑧Narvasa, Chito（9年生）

今年度の課程を休学していたチトではありますが、当会職員によりモニタリングと家庭訪問を四半期に一度実施しました。モニタリングと家庭訪問では、チトの状況の把握と次年度の進路の相談が行われました。モニタリングの結果として、チトが休学中にパートタイムの仕事をしたり、弟たちのお守りや家族のお手伝いをしたり、家庭を助けるために頑張っていたことが確認されました。また、次年度の進路に関しても、本人が新年度からの復学を希望し、勉強をつづけたい気持ちがあると分かりました。これにより、新年度からはチトが復学することが決定しました。新年度からは、チトが新たな気持ちで継続して勉強に励むことができるようにサポートしていきたいと思えます。

⑨Carlota B. Evangelista

2014年度に家庭の事情により児童養護施設に入所していたカルロータでしたが、現在では施設を退所し、再び家族と共に暮らし始めました。家庭復帰に伴い、再び学校にも通い始めています。来年度からは、中等教育の後期課程の1年目にあたる11年生に入学する予定をしています。

今年度ご支援をいただいていた7名の奨学生全員が無事にそれぞれの学年を修了することができました。来年度はそれぞれの奨学生が進級をし、新しい学年で学業に励む予定です。一方、今年度はチトが家庭の事情により休学するなど、家庭の状況が子ども達の学業に影響を及ぼしてしまうという現状を痛感しました。また、アリスは人間関係が原因で不登校になってしまう時期もありました。奨学生たちは多感な年頃でもあり、それぞれが個人的な悩みなどを抱えながら普段の生活を過ごし、学業に励んでいます。学業面の支援だけでなく、子ども達が安定した感情のもと、学業に集中することができるように、子ども達の精神的な面へのサポートも実施できるよう、担当職員と共に一層努力していきたいと



考えております。

来年度は、今年度の奨学生7名に、復学したチトとカルロータを加えた9名に対しての支援を実施します。復学したチトとカルロータに対して、支援を再開できるようにご配慮いただき、誠にありがとうございます。引き続き、こども達に温かいご支援を賜われますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

報告者：山本 浩平（フィリピン事務所現地調整員）

2018年5月24日